

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年
3月31日
第130号

ヘントウ（バラ科）

アーモンドと呼んだほうが親しみがありますね！園内、第一圃場南側、メタセコイアの下に幼木に、モモに似た花がみられます。西アジア原産するいくつかの原種が起源とされていますが、詳細は不明です。花はサクラやモモと同様、葉が出る前に咲きます。果実は、外果皮、薄い果肉と、その内側に内果皮が硬化した核で構成され、核の中に種子があります。種子が甘い品種と苦い品種があり、前者の種子は食用に、後者の種子は圧搾してアーモンド油の原料とします。その時の圧搾粕から、鎮咳薬として使用されていた苦扁桃水（くへんとうすい）が作られますが、現在ではほとんど利用されません。苦味は青酸配糖体のアミグダリンとされ、大量に食したときには青酸中毒を起こします。

スモモ（バラ科）

園内、果樹エリアでは、サクラに似た白くて小さな花がみられます。漢字では李、酢桃と書きます。中国原産の落葉高木で、花柄が長く、1節に3～5個の花が付きます、花弁が丸いのでサクラと区別できます。自家不和合性で、多くの品種があり、日本スモモ、西洋スモモ、アメリカスモモなどと区別されますが、起源はみな同じです。樹皮または根皮が生薬となり、李皮（リヒ）または李根皮（リコンピ）と呼び、清熱、降気を目的に、奔豚湯（ほんとうとう）などに配合されます。奔豚とは、発作性の神経性動悸、ヒステリー、いわゆるパニック障害のことを指し（奔豚気病とも言う）、昔の人はこの症状を豚が走り回る状態と例えたようです。